

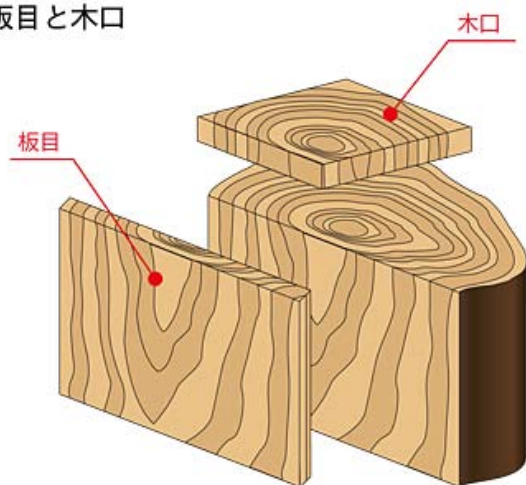


板目木版

いためもくはん



板目と木口



概要

板目木版は、木を繊維と同方向である縦に切り出した板目板と呼ばれるものを版木に使用する木版画のことです。日本では、浮世絵版画など古くから板目木版の伝統的な文化があり、現在でも広く一般的にこの板目板の版木を使った木版が行われています。

板目木版に使用する板目板は、木口木版で使用する木を輪切りに切り出した木口板と比べて、柔らかくて彫りやすいのが特徴です。この板目板の版材には、木は堅さや組織が一定な桜、朴（ほう）、桂などの広葉樹が適しており、浮世絵版画にも山桜の無垢板が使用されていました。現在では、版画の大型化や無垢板が高価なこと、また素材の入手が困難になってきたことから、シナの板目板を張り合わせた合板であるシナベニヤが一般的に広く使用されています。

板目木版に使用する絵具は、水性と油性の二種類に分けられます。一般的には水性の絵具を用いる場合が多く、主に墨や墨汁、透明水性絵具、不透明水彩絵具などを使用します。また、顔料と膠やアラビアゴムなどを用いて絵具を自製することもできます。この水性の絵具を用いた水性板目木版には、通常摺水引き（どうさびき）をした和紙を湿らせて摺りを行います。摺りにおいては、ほかし摺りや地潰し、ゴマ摺りなどの様々な摺刷（手による印刷）方法があり、これらの多くは浮世絵時代に発達した技法です。

油性のインクを用いる油性板目木版を行う場合には、リトグラフ用のインクを用いるとよいでしょう。

板目木版の制作の工程としては、まず下絵を版木に転写し、彫りを行います。版として残す描画部の輪郭に沿って切り出し刀を入れ、その周りの不要な部分を駒透（丸刀）や間透（平刀）などの彫刻刀やノミで彫って取り除いていきます。また描画部分を駒透などで直接彫り進めるのもよいでしょう。彫りをすべて終えたら、摺りを行います。水性の絵具を用いる場合には、凸部に絵具と糊を水で溶いたものに乗せて版画用ブラシ（刷毛）でよく伸ばし、油性の場合には、ローラーでインクを乗せて、バレンで圧をかけることで版から紙へ絵具やインクを転写します。またバレンでの摺りの他に、プレス機による

刷りを行う場合もあります。水性絵具によるプレス機刷りは、木目が綺麗に表現できるのが特徴です。
このようにして作られた板目木版の作品は、単色でのシンプルな表現や多版を使用した色豊かな表現、木目を生かした表現など様々な表現を行うことが可能です。

板目木版用版木の種類

山桜（ベニヤ板）



山桜（無垢板）



シナベニヤ 9mm厚



シナベニヤ 6mm厚



板目木版 制作工程（内見当の場合）

彫りの準備

下絵をトレーシングペーパーに転写する



版にカギ見当・引き付け見当を彫る



トレーシングペーパーから版に転写する



彫り



摺りの準備

紙を湿す

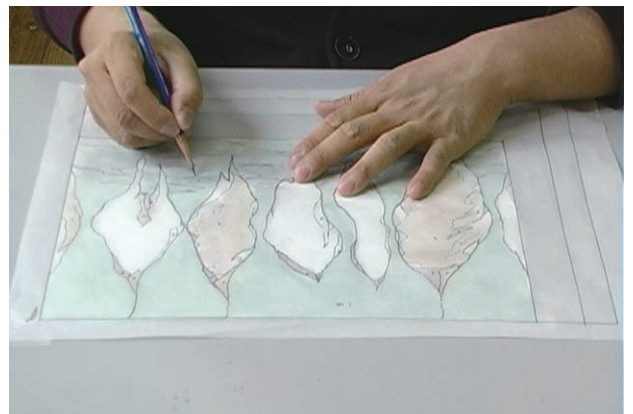


摺り

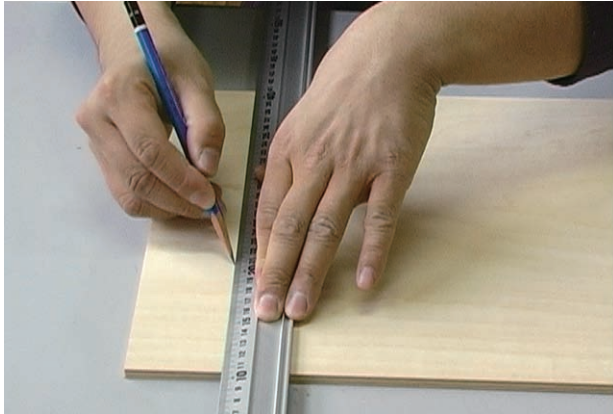


完成

板目木版・彫りの準備



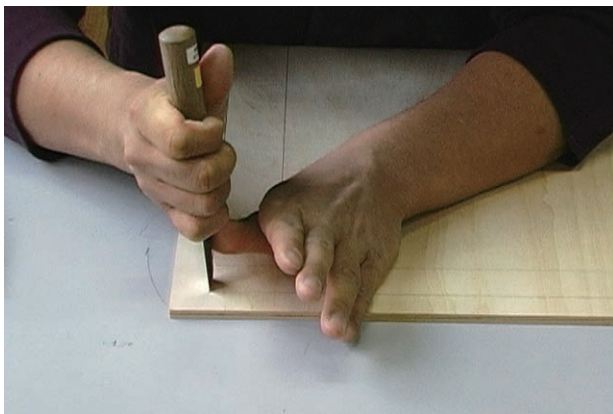
手順 1. 下絵をトレーシングペーパーに転写します。



手順2. 版木にイメージサイズと紙を置く位置を書き込みます。引き付け見当の場所にも印をつけておきます。



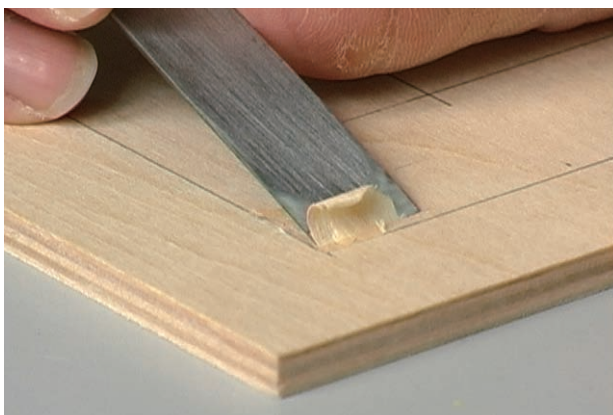
手順5. トレーシングペーパーを紙のサイズに切ります。



手順3. カギ見当の位置に見当ノミで切り込みを入れます。この時、ノミは平らな面を版木の外側に向けます。引き付け見当の位置にも同様です。見当ノミは、カッターでも代用できます。



手順6. トレーシングペーパーを裏返し、彫ったカギ見当に合わせて画鋏などで固定し、カーボンとボールペンをうい下絵を転写します。



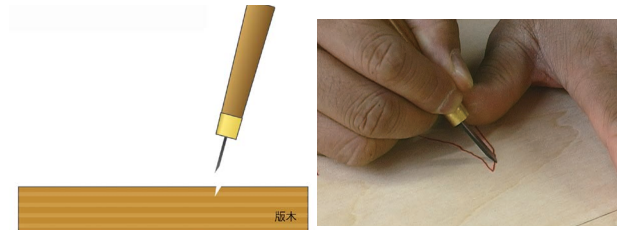
手順4. 切り込みを入れたカギ見当と引き付け見当を見当ノミで紙の厚さ一枚分程度彫り下げます。この作業を必要な全ての版に行います。この作業は平刀でも代用できます。



手順7. 版の必要な部分を転写したら完成です。

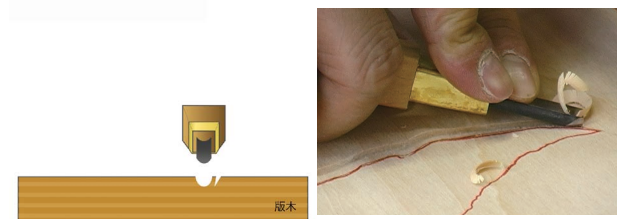
板目木版・彫り

工程 1. 切り出し刀で切り込みを入れる



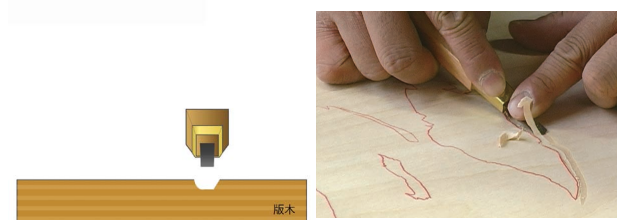
版木に描き込んだ下絵を基に、版の凸部のアウトラインに切り出し刀（版木刀）で切り込みを入れていきます。

工程 2. 切り込みを入れた周りを駒透で彫る



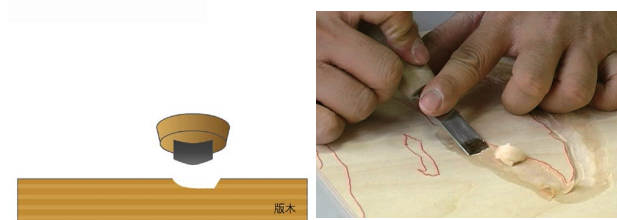
切り出し刀で切り込みを入れた少し外側を駒透でさらっていきます。

工程 3. 駒透で彫った場所と切り込みの間を間透で彫る



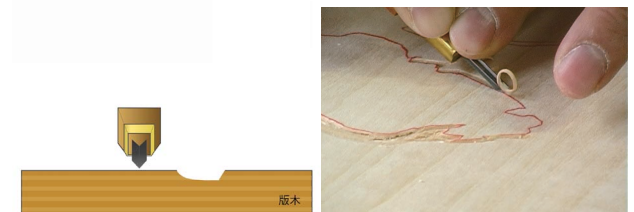
駒透で彫った部分と切り出し刀で切り込みを入れた部分の間の余計な部分を間透で取り除いていきます。

工程 4. 周りをノミでさらう



版となる凸部を作り出すことができたなら、一番外側の部分をノミでなだらかになるようにさらっていきます。

補足 1. 駒透・三角刀で直接彫る



下絵の通りに直接駒透や三角刀を用いて彫ることも可能です。駒透きは丸みを帯びた彫り、三角刀はシャープな彫りができます。

板目木版・摺りの準備



手順 1. 摺りの前に、あらかじめ和紙を湿しておきます。新聞紙を用意し、水刷毛で水分を与えます。水分を与えたら、水の付いていない刷毛で新聞紙の皺を伸ばしていきます。



手順 2. しっかり皺を伸ばしたら、新聞紙 2 枚程度の間隔で和紙を挟んでいきます。和紙を挟めたら、ビニール袋で包んで上から重石をのせて半日程度置きます。

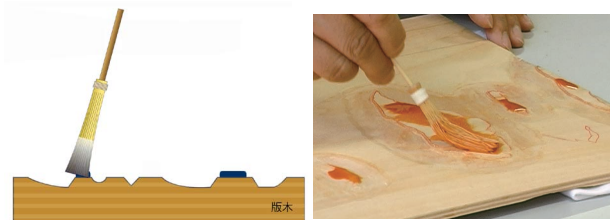
板目木版・摺り

工程 1. 版に水分を与える



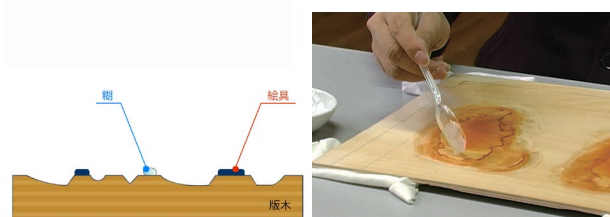
版に水刷毛や霧吹きで水分を与え、湿ったタオルなどに包んで15～20分ほど置きます。

工程 2. 版に絵具を置く



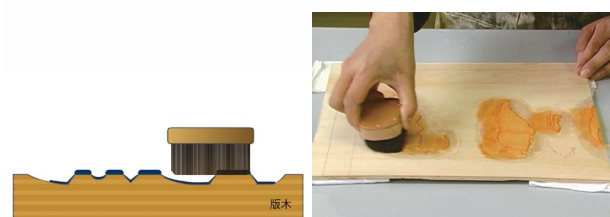
版をやわらで固定し、はこびで絵具を置いていきます。版が一枚目の際は、刷毛で絵具を伸ばし3分程置いて版に馴染ませます。

工程 3. 版に水で溶いた糊を置く



糊はあらかじめ水で溶いておきます。でんぷん糊1：水1程度の割合で溶いておいたものを版の凸部に置きます。

工程 4. 刷毛（版画用ブラシ）で絵具をのばす



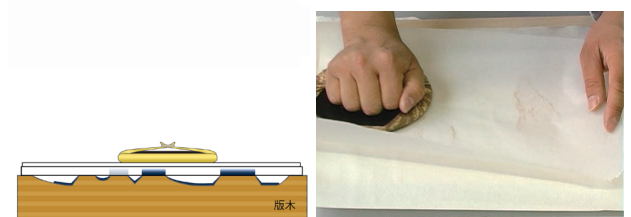
版の凸部に置いた絵具と糊を刷毛（版画用ブラシ）でのばします。この時、絵具と糊をよく混ぜながらのばすようにしましょう。

工程 5. 見当に合わせて紙を置く



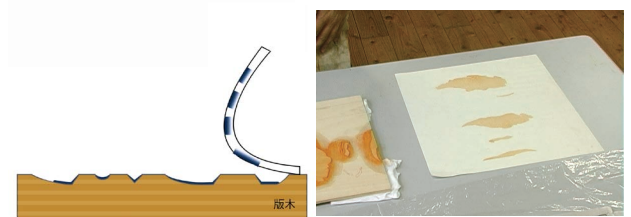
紙の角をカギ見当に引っ掛け、底辺を引き付け見当に合わせて置きます。上にあて紙をのせます。

工程 6. バレンで摺る



初めはバレンで押さえながら大きく動かし、次に木目と竹皮の繊維方向に合わせて細かく圧力を加えます。

工程 7. 完成



しっかり圧を加えたら、和紙をゆっくりめくります。必要な全ての版を摺り終えたら完成です。